

## 地域に根ざしたイベントのあり方について

岩手南部森林管理署 遠野支署

○宮 守森林官	花 田 浩 史
上 郷森林官	山 本 こずえ
附馬牛森林官	澤 藤 和 利

### 1 はじめに

遠野市は森林面積が83%と多く、林業及び林産業に関わっている就労者が多い地域である。そのため、行政主体による林業関係のイベントも行われている。

国有林も、より一層公益性重視の施業管理にウエイトが移り、地域のニーズが多様化する中、開かれた国有林「国民の森林」として今後どのように対応していくのか、重要な課題の一つである。

遠野支署としても従来から国有林のPRを主眼として、森林教室・国産材祭り等のイベントに取り組んできており、今年度は新たに支署主催の植樹祭を実施し、また、国有林で行われた育樹祭に小学生が参加したところである。

今年に入り地域の小中学校から森林・林業についての質問や森林教室、学習会等の問い合わせが増えてきており、それらについて、より地域に根ざしたイベントを企画していきたいと考えている。

しかし、私達と世代の違う生徒たちが森林・林業について、どのように考えているのかわからないため、支署として何をどのようにPRするべきか悩むところである。

そこで、市内の小中学校の森林・林業に対する認識がどのようなものであるか、どのようなイベントに興味があるのか把握するためアンケート調査を行い、その結果と今まで行ったイベントに対する要望と感想をもとに、学校に対するイベントの取り組み方について考察することとした。



写真-1 遠野市国産材まつり



写真-2 上郷中学校での講演

小学校	遠 野	遠野北	上 郷	青 笹	土 淵	附馬牛	綾 織	小 友	言十
男	2 5	2 8	1 8	1 8	8	8	1 1	1 3	1 2 9
女	2 3	3 7	1 2	1 0	1 3	8	1 3	1 3	1 2 9
計	4 8	6 5	3 0	2 8	2 1	1 6	2 4	2 6	2 5 8

中学校	遠 野	上 郷	附馬牛	言十	小・中学校 計	
男	7 5	1 3	1 0	9 8	男	2 2 7
女	6 2	1 4	8	8 4	女	2 1 3
計	1 3 7	2 7	1 8	1 8 2	計	4 4 0

表-1 アンケート調査の対象者

## 2 研究方法

遠野市内の小学校5年生と中学校2年生に「森林・林業についてのアンケート」調査を実施し分析した。

今回の調査は、森林及び林業についてどうイメージしているのか、森林のイベント等に対し、どれくらい興味を持っているのかに重点においた。

なお、アンケートの質問については小中学生にわかりやすい内容とした。

**森林・林業に関するアンケート**

学 年 \_\_\_\_\_  
性 別 男 ・ 女 \_\_\_\_\_  
以下の質問について、該当するものに○印を付けお答えください。

---

1. 遠野の森林に関心がありますか

は い    いいえ  
理由 \_\_\_\_\_

---

2. 森林の働きで重要だと思うものをいくつか選んでください

①水をたくわえる	⑤森林浴
②空気をきれいにする	⑥木材を供給する
③災害から守る（土砂くずれ・こうずい）	⑦野生動物のすみか
④地球の温暖化を防ぐ	⑧その他（_____）

---

3. 遠野の山の木を切ることに感じているものを1つ選んでください

①自然を守るため木を切るべきではない  
②家を建てたり紙を生産するため木を切るのは仕方がない  
③もっと木を切って産業を発展させたほうがよい  
④その他（\_\_\_\_\_）

---

4. 知っている木の名前をいくつかも選んでください

① スギ ② アカマツ ③ カラマツ ④ ヒノキ ⑤ 青森ヒバ ⑥ ブナ  
⑦ クリ ⑧ ナラ ⑨ シラカバ ⑩ ケヤキ ⑪ イチイ ⑫ サクラ  
⑬ ナナカマド ⑭ イチョウ ⑮ キリ ⑯ エンジュ ⑰ センノキ

---

5. 国有林を管理しているところを1つ選んでください

①農業協同組合 ②森林組合 ③市役所 ④地方振興局 ⑤森林管理署（営林署）

---

6. 国有林が行っている仕事のイメージを2つ選んでください

①木を切って木材を販売している      ②木を植えて森林を育てている  
③森林のパトロールをしている          ④山菜・きのこを作っている  
⑤山に道路をつくっている                 ⑥山に牧場を作っている

---

7. 森林・林業であなかが興味あるものをいくつでも選んでください

①草・木の名前を知りたい	⑦ウォークラリーをしたい
②木を切ってみたい	⑧自然や森林の働きについての話を聞く
③山に木を植えたり手入れをしたい	⑨山仕事（林業）の話を聞く
④葉や木材で何か作ってみたい	⑩山菜・キノコ採りをしたい
⑤鳥や動物（昆虫）の観察をしたい	⑪興味が無い
⑥登山・キャンプをしたい	⑫その他（_____）

---

8. あなたは森林・林業に関するイベントがあれば参加しますか

・ は い    いいえ  
はいと答えた人に聞きます。（どんなイベントがあればよいと思いますか）  
\_\_\_\_\_  
例 植樹祭（木を植える）、育樹祭（山の手入れ）、森林教室 ほか

---

9. あなたは将来森林に関する仕事につきたいですか

・ は い    いいえ  
理由 \_\_\_\_\_

---

10. 森林・林業についてあなたが考えていることを自由に書いてください

.....  
.....  
.....  
.....  
.....

以上でアンケート調査は終了です。ご協力ありがとうございました。

### 3 アンケートの調査結果

#### ①遠野の森林に関心がありますか

全体では、「はい」が52%となったが、小学校では「はい」が59%、中学生では「はい」が42%となり小学校がより関心がある結果となった。

はいの理由については、小・中学生とも大きな違いはなく、景色が綺麗・森林自然が多い等であった。

いいえの理由については、興味がない・自然が多いのが当たり前すぎて気にすることがない等であった。

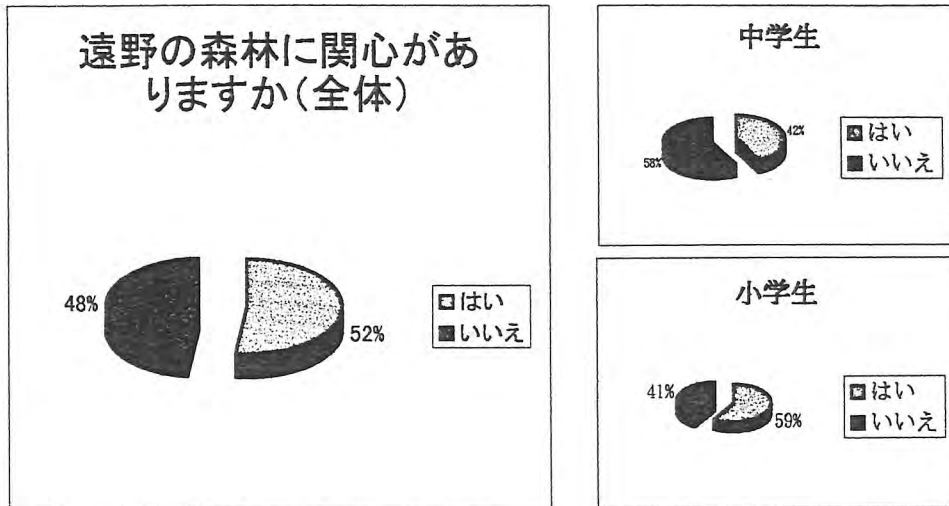


表-2

#### ②森林の働きで重要だと思うものをいくつか選んで下さい

「空気をきれいにする」「野性動物保護」「国土保全」の順で重要だという回答となり、環境問題の意識の高さが伺える。

これに対し、「木材を供給する」という意識は、極端に低く日頃、木材を搬送するトラック等を見かけているはずなのに以外な結果となった。

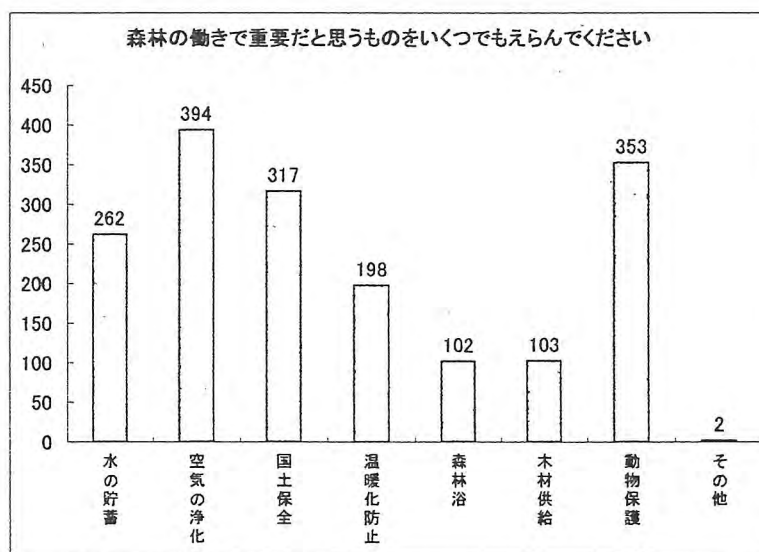


表-3

③遠野の山の木を伐ることについて感じているものを1つ選んで下さい

「木を伐るべきでない」という回答が59%と最も多く、次いで「必要最小限木を伐ることは仕方ない」という回答は33%あった。

ここでも自然保護についての関心が高く、木を伐ることは自然を破壊するという意識が根強くあるようだ。

その他の意見として、「木を伐ったらその分植える」という回答もあった。

中学校別で見ると、山間部に近い上郷・附馬牛中学校は地元産業である林業農業を中心にして環境教育に取り組んでいるためか、街中の中学校よりも「木を伐ることは仕方ない」という回答が多くなっている。

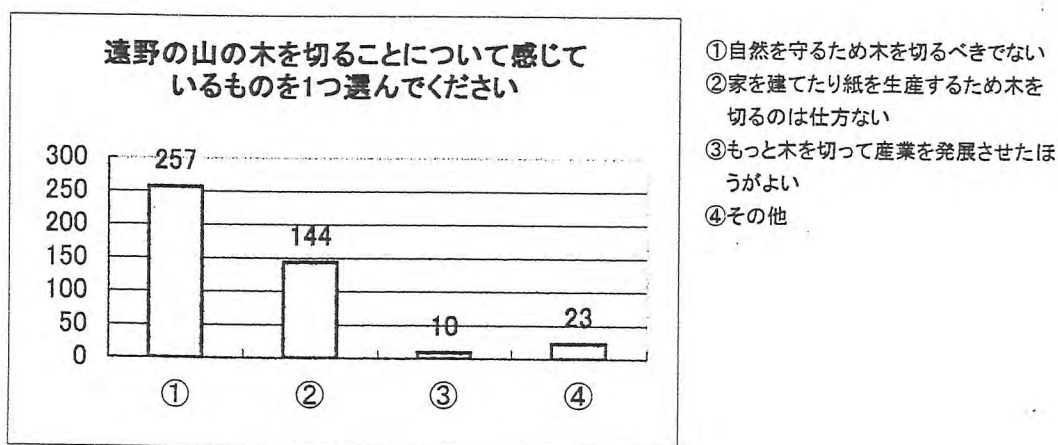


表-4

④知っている木の名前をいくつでも選んで下さい

6～12種ぐらいが半数以上占めており、木の名前については知っていることがこの数値を見てもわかる。なかでも、針葉樹ではスギ、ヒノキがもっとも多く、広葉樹ではクリ、サクラが多かった。

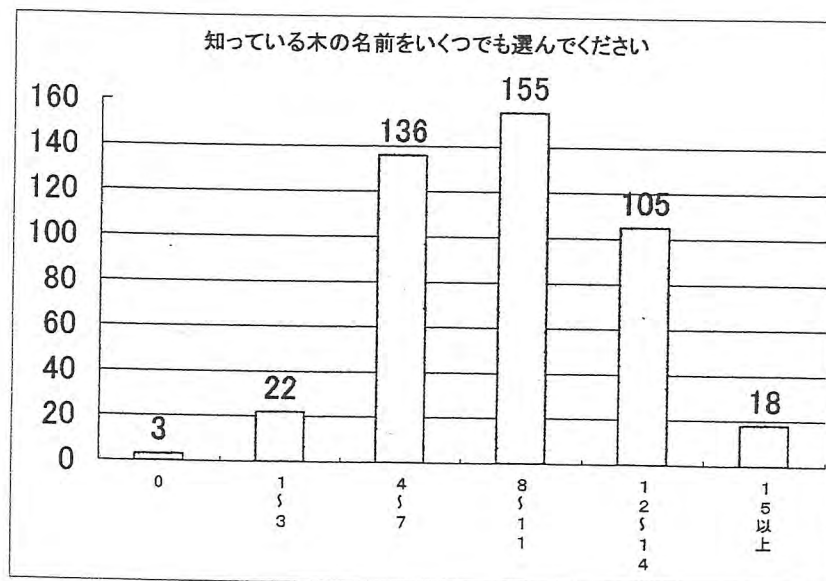


表-5



⑤国有林を管理しているところを1つ選んで下さい

全体で見ると、森林管理署が52%、森林組合が27%という結果となった。

しかし学校別で見ると、かなりの差がでている。支署主催の植樹祭に招待した綾織小学校や、森林官による環境教育講演会を行った上郷中学校の場合、森林管理署の回答が72%、81%と高い。

また、日頃から森林・林業に係わる取り組みが盛んな附馬牛小学校でも68%と比較的高い結果となった。一方、国有林から比較的距離があり、地域に森林事務所のない青笹小学校では森林管理署の回答が14%と目立って低くなっている。

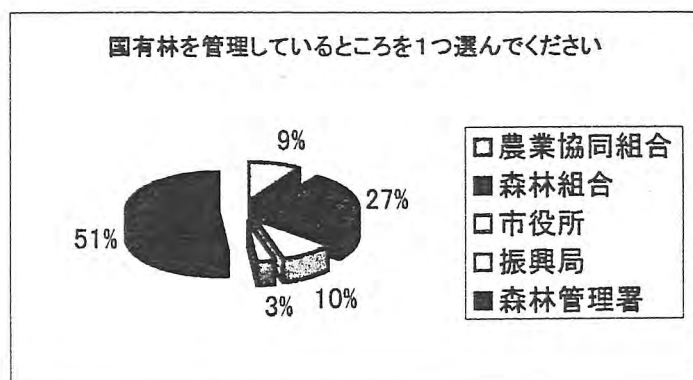


表-6

⑥国有林が行っている仕事のイメージを2つ選んで下さい

「木を植えて育てている」「森林のパトロールをしている」の順で回答が多く、森林を守り育てているイメージが強く、「木を伐って木材を販売している」との回答は意外と少なかった。

遠野の山には採草地が多いせいか、「山に牧場を作っている」という回答も予想以上に多かった。

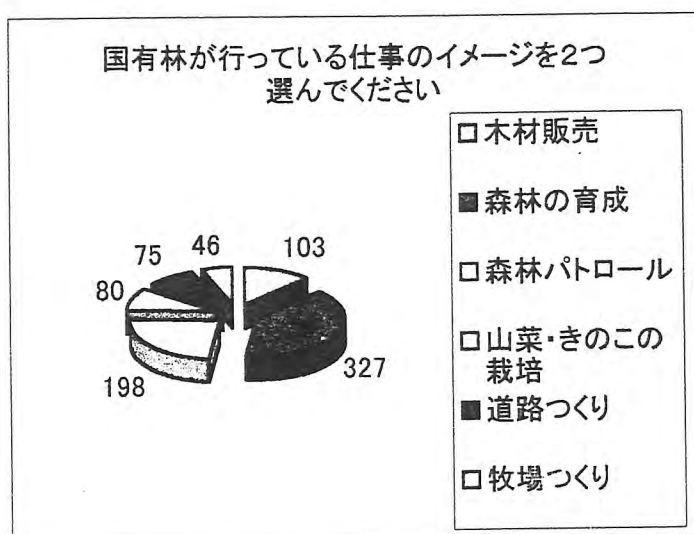


表-7

⑦森林・林業であなたが興味あるものをいくつか選んで下さい

全体で見ると「登山・キャンプ」「野鳥や動物観察」「山菜・キノコ採り」「ウォークラリー」の順で回答が多く、森林をフィールドとしたレクリエーションに興味を持っている傾向であった。

また、小学生では「木を植える・手入れ」の回答も比較的多く、「自然や森林の働き」「山仕事（林業）」の話を聞く、についても中学生に比べ興味をもっていることがわかった。

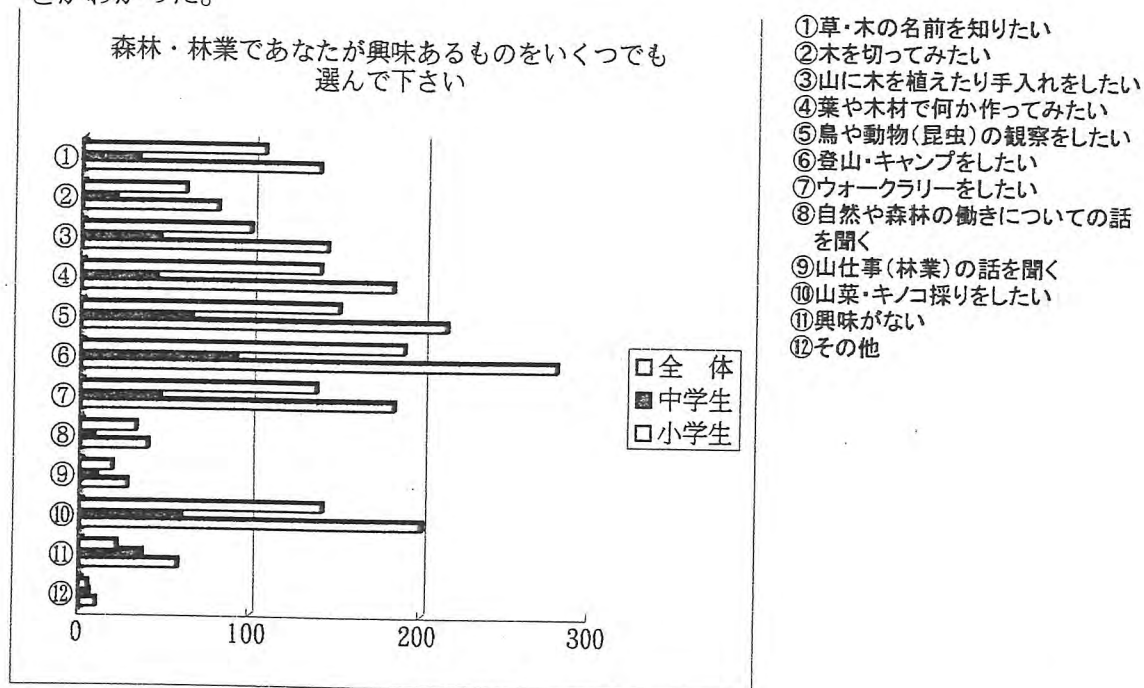


表-8

⑧あなたは森林・林業に関するイベントがあれば参加しますか

全体で見ると「はい」が32%「いいえ」が68%の回答でイベントの参加については消極的ではあるが、中学生で「はい」が20%小学校で「はい」が40%と小学生・中学生で意識の違いがあった。

イベントの内容については、アンケートの問7の森林・林業で興味あるものと同じ傾向であった。

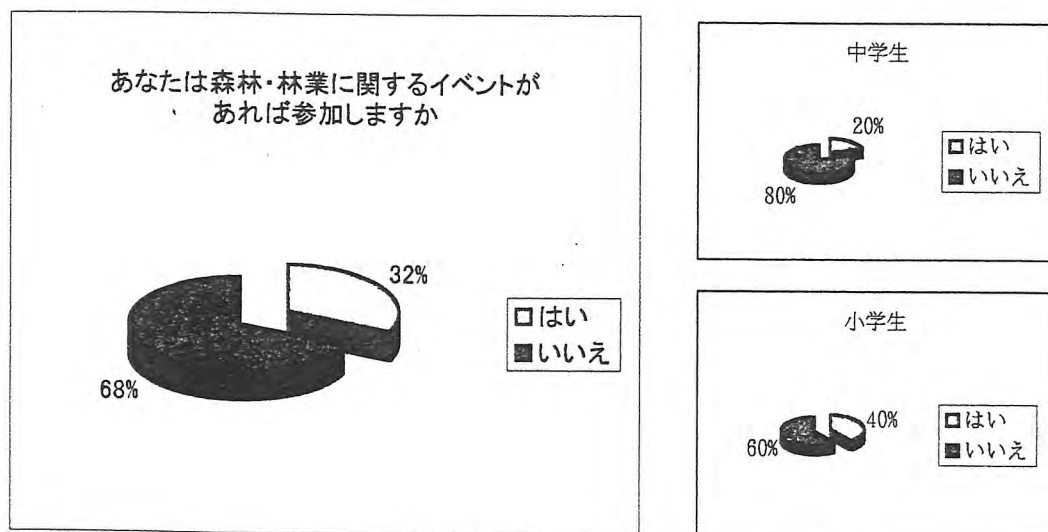


表-9

⑨あなたは将来森林に関する仕事につきたいですか

全体で見ると「はい」が9%「いいえ」が91%の回答となった。

中学生では「はい」が1%(2名)で、小学生では「はい」が15%でここでも小学生・中学生で意識の違いがあった。

「はい」の理由については、森林が好き・森林を守り育てたい・森林のことを詳しく知りたい等自然保護の理由が目立った。

「いいえ」の理由については、ほとんどが他の仕事をしたいという意見が多いが少数ではあるが、「危ない(道に迷う・熊にあう等)」「大変そう」という意見もあった。

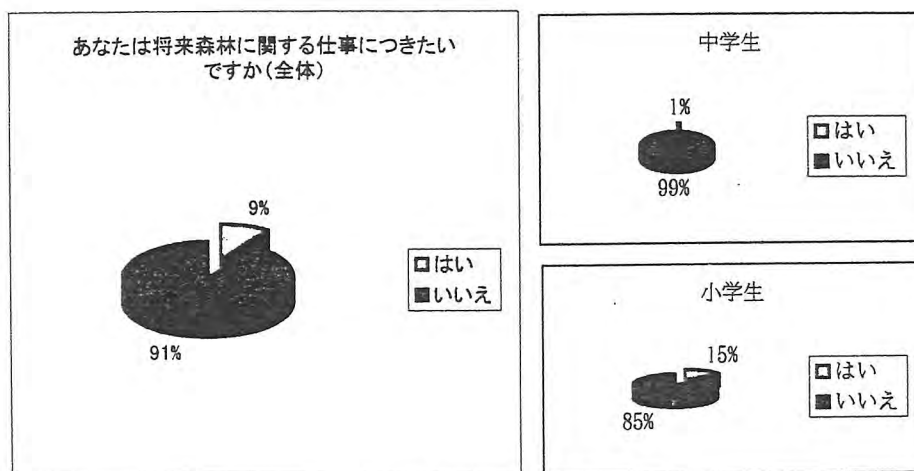


表-10

⑩森林・林業についてあなたが考えていることを自由に書いてください

小学校	<p>多数意見(1)災害を起こさないため森林を伐採しないでほしい</p> <p>(2)森林を増やし守りたい</p> <p>(3)木を伐ることは仕方ないが、動物の生息地を守ってほしい</p> <p>(4)木を植えて手入れをしたい</p> <p>(5)自然を大切にし、環境の良い街にしたい</p> <p>少数意見(1)山を守ることはとても大切な仕事で山で働く人は素晴らしい</p> <p>(2)学校に自然を守る委員会があればもっと自然とふれあえる</p>
中学校	<p>多数意見(1)森林の伐採は早急に止める必要がある</p> <p>(2)木を伐ることは仕方ないが、その分植えてほしい</p> <p>(3)森林の伐採はしないほうが良いが木材を利用する必要もありどうしていいかわからない。</p> <p>(4)森林資源が減少しており、植える育てるを大切にしてほしい</p> <p>(5)遠野は自然が多いが都会のようにしないでほしい</p> <p>少数意見(1)森林を少なくして街を大きくしてほしい</p> <p>(2)木を伐る以外で森林を利用したほうがよい</p>



#### 4 イベントの取り組みについて

平成11年度は、遠野支署として植樹祭・森林教室・国産材祭り・講演会を実施したところである。

その中で、小学校を対象にした森林教室では、学校側から話だけでなく体験できる内容のものにして欲しいとの要望があり、測樹・空中写真・丸太切り・ネイチャークラフト・ウォークラリー・植生勉強会・講演を行った。参加した小学生からは、「のこぎりで丸太を切るのが楽しかった」「木の高さや太さを測るのが面白かった」といった意見が目立った。

中学校で行った環境教育講演会については、学校側から地域の林業についての知識が不足しているため、山仕事での体験談を主とした講演にして欲しいとの要望があり作業写真や山仕事の道具を用いて実際に山で働いていることを中心に話をした。

このため、中学生からは「どのように森林を育てているのかわかった」という意見が目立った。

また、イベントを実施した小中学校共、今後もこのようなイベントを実施して欲しいと要望があった。

#### 5 考 察

今回のアンケート調査結果から小中学生は、「木を伐らないで欲しい」「木を伐ることは必要だけど森林を守りたい」という思いが強く、特に環境問題・自然保護について高い意識を持っていることが把握できた。

これら「木を伐らないで欲しい」という小中学生の声は今日、国民やマスコミの環境問題に対する意識を反映させた結果であり、裏をかえせば森を大切に、木を大切にしようという気持ちの表れである。

その反面、地域産業である林業・林産業について学ぶ機会・体験する場が少ないため、地元の山仕事や木材の利用等についての関心が低い結果となっている。このことは私達、国有林側からの働きかけが不足していた結果として反省すべきことである。

このようなアンケート結果、また、今まで行ってきた講演会・森林教室等での学校側からの要望及び生徒の感想から考えてみると、小学生には植樹・育樹・森林教室等を主とした体験学習会の実施、中学生には、地域の山仕事に関係する講演等を主とした学習会を行うなど、対象者別に段階的に実施していくことがより森林・林業に興味と理解が得られると考えられる。

今後、学校からの講演の要請等、小中学生に森林・林業のPRの場が与えられた場合はもちろん、こちら側からどうPRの機会を作っていったらいいか模索する必要がある。そのような機会をつくっていき、中学生レベルでは遠野の山ではどんな仕事をしているのか、伐採された木はどのように利用されているのかといった地域産業としての森林について、小学生レベルでは体験を中心に森林の大切さ、人と森林の関わりなど分かりやすく伝えていきたい。

そうすることで、小中学生の森林への関心の幅がどんどん広がり、森林は再生可能

な資源であり、森林の伐採が直ちに環境破壊につながっていくものではないと認識されていけば、森林・林業に携わる者として、こんなにうれしいことはない。

小中学生とも環境問題・自然保護に強い関心を持っていることを一つのステップとして、更に森林・林業に対する考えを深めてもらうため、国有林をフィールドとして見学会・講演会・森林育成の体験学習等の幅広いイベントをしていく必要がある。

## 6 おわりに

イベントを実施するにしてもそれに対応する遠野支署の職員が減少し業務に余裕がなくなっている現実はあるが、しかし、これまでも支署単独で森林教室・植樹祭等に取り組んできており、これらのイベントについても更に工夫しながら、新たなイベントについても考えていきたい。対象者によって体験型か講演型か、また、環境ベースか林業ベースか、他にもレクリエーションの組み合わせもあり、ポイントを絞り込むことも必要と考える。

また近年、林業体験をしてみたいという国民の声も多くなっていることから、国有林をそのフィールドとして大いに活用してもらえよう、私達の仕組み、体制を作っていく必要がある。

これらにより、森林・林業に対する考えが深められ、国有林のPRのためになると思われます。